

第22回琉球大学医学部医学科同窓会総会

～総会開催の報告と同窓会のこれから～

琉球大学医学部医学科同窓会会長 蔵 下 要（3期生）



日々寒さを感じられるようになった今日この頃、同窓会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

去る、7月20日に第22回琉球大学医学部医学科同窓会が執り行われました。毎年7月、海の日を含む連休の日曜日に総会を行う日程も定例化して落ち着いてきたように思われます。今年は、同窓生初の母校の医学科教授就任という喜ばしい話題もあって、総会、講演会、懇親会には合わせて100名の参加があり、これまでにない大変盛り上がった会になりました。

総会の審議事項においては、前年度の事業報告と収支決算に関する件、また今年度の事業計画ならびに予算案が全会一致で承認された後、執行部から2件の議案が出されました。1つ目は終身会費制度に関する件です。卒後一定年数に達した会員で希望する方は、同窓会費を1年ずつ毎年納めるのではなく、一定金額を終身会費として一括納入ができるようにする制度を導入するというものです。卒後年数や金額についてはまだ検討する余地があるものの、この件に関しては出席者の大部分の賛同が得られたように思います。2つ目は琉球大学医学部医学科同窓会の名称を設けてはどうかという案です。琉球大学であることをイメージできて、長く親しまれるような「〇〇会」というネーミングの募集を行うことに関して、出席者に意見を求めたところ賛成が約6割程度でありました。この案件についてはまだまだ多くの同窓生の意見を求め、時間をかけて検討する必要があると思われます。この2つの議案に関しては、今後、役員会や評議員会で前向きに検討を行い、次年度の総会で再度審議事項とさせていただきたいと思います。

続いて行われた講演会では、まず、恒例となりました卒後20年目の同窓生による講演として、8期生で現在、アメリカのUCSFで麻酔医として活躍されている金城さくら氏が「アメリカにおける臨床医学」と題してお話をされました。次に教授就任記念講演として、今年5月に母校の麻酔科学講座教授に就任された垣花学氏に「研究からSerendipity」という演題で講演をしていただきました。ご自身がこれまでに行ってきた研究の内容から、臨床医が研究を行うことの意義や魅力、そして琉球大学の教授として母校の発展のための同窓生に対するメッセージなど幅広い内容を限られた時間の中で大変わかりやすくお話をいただきました。講演会にはお二人の恩師である初代麻酔科学講座教授の奥田佳朗先生も参加されており、愛弟子二人の講演を嬉しそうに聴かれている姿が印象的でした。

懇親会は、垣花学氏の教授就任を祝う祝賀会のムードもあり、例年になく華やかな雰囲気で行われました。大学本学からは副学長の外間登美子先生、また本学同窓会からは仲間勇市副会長と宮城重哲関東支部事務局長にご参加をいただきました。この場を借りて御礼を申し上げます。懇親会の終了後には5期生（医学科教授就任記念）、8期生（卒後20年目）、18期生（卒後10年目）の同期会も行われています。この同期会の様子はこの後の頁に掲載されておりますのでどうぞご覧ください。

さて、この医学科同窓会も発足から21年を経過し、卒業生も2,700名を超えました。大学には教授、准教授、また公立病院や民間病院においては院長、副院長をはじめとする管理職クラス、そして行政の場においても重要な立場の職に同窓生が就任しています。県や各地区の医師会においても同窓生の理事が誕生しています。このような中において、我々の同窓会は今や単なる親睦目的の集まりではなく、医学部や大学本学、更には沖縄県の医療界や社会の中において責任ある役割が求められているのではないかと思います。同窓会の目的の、①会員相互の親睦を図り、②会員相互の連携につとめ、③併せて琉球大学医学部医学科の発展に寄与する という大きな3つの柱のうちの3番目の目的を達成するための基盤がようやくできてきたのではないかと感じます。これからより一層、会員の皆様のご理解が必要になってきます。会員に開かれた同窓会、より結束力の強い同窓会を目指して役員一同で努力してまいりますので、今後とも同窓生の皆様のご支持、ご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。